

地域のまちづくり団体で研修しました

滋賀県東近江市で地域の人たちがつくった非営利の団体さんで研修させていただきました。「ワークショップを形にする」というオーダーをいただき、今までの活動をふりかえる機会をいただきました。

☆ワークショップをカタチにする？

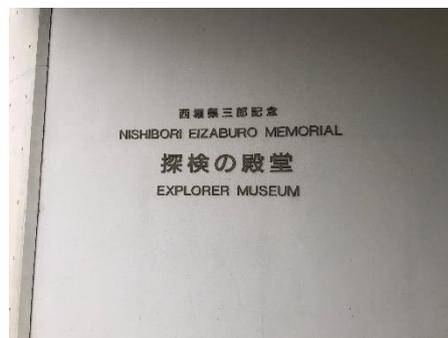
日本ファシリテーション協会（FAJ）の3月定例会でメイン・ファシリテーターを務めてくださった加留部さんのご本『参加したくなる会議』で紹介されていた「マネジメント・デザイン」という考え方があります。「ワークショップをするそもそもの目的を理解し、どのように実現させていくのかをデザインする。そして、そのための各ステップのワークショップをデザインする。」というものでした。

今回、そのマネジメント・デザインをした事例をご紹介します。

☆条例づくりや計画づくりだけでなく

もちろん、条例や計画をつくるというのは市民の生活に影響する重要なものです。公園をつくるときの市民参加の部分や地域の中での防災意識を醸成していくということも大切な暮らしに大切なこと。そして、市民が交流する場があることも。

住民自治という、さまざまな場面で市民が意見を言い、行動して、自らの手で暮らしを良くしていくという活動のお手伝いをするのがまちづくりファシリテーターなのだと思えてきました。



☆振り返ることの大切さ

今までの活動や、その活動の本質はなんだったのか？お手伝いできたのか？いろいろなことを考える機会をいただきました。

来し方をふりかえる、いったんまとめるということの大切さを痛感しました。よく使うふりかえりの方法にKPT（Keep Problem Try）というのがあります。ここまでシステムチックにならなくても、ざっとふりかえてみるだけでもいろいろな気づきと、今後に向けてTryしたいことが見えてくることを体験できました。

このような機会をいただいたことに感謝します。

*東近江市は水のまちでした。そして、近江商人の缶が方が根付いていて、金銭的にも精神的にも豊かであつたらうと想像できました。その雰囲気が町中にしみ出している、素敵なまちでした。